



# インフォメーション

春の特別展

## 白樺派と漱石

『白樺』創刊一〇〇年

会期：4月24日(土)～5月30日(日)



今年2010年は、武者小路実篤らが、明治43年(1910年)4月に同人雑誌『白樺』を創刊してから100年に当たります。

これを機会に、白樺同人と夏目漱石との関係を取り上げます。

白樺同人は、文壇に先輩をもたないと宣言していましたが、その中で唯一、敬意を寄せたのが夏目漱石でした。

中でも実篤は、漱石作品で日本語表現の豊かさに気づき、口語に近い漱石の文体に自分にも書ける可能性を感じました。文学に対する姿勢にも強く共感し、『白樺』創刊号に発表したのは漱石の「それから」への評論でした。また、志賀直哉、木下利玄は、東京帝国大学で漱石の講義をとり、多くの示唆を受けています。

『白樺』は創刊当初、文壇から十分評価されなかった中で、漱石はいち早く彼らの獨白性・同時代性に気づき、早々に自らが主宰する朝日新聞文芸欄へ原稿を依頼しています。

また、漱石の周りには木曜会の人々が集っていましたが、白樺同人はそこには参加せず、距離を置いていました。これに対し、漱石も木曜会のメンバーに対するのは違った親しみを持って接していたことが、手紙などから窺えます。

こうした共感と理解と同時に、明治初期の激変する時代の中で新旧の価値観の間で苦しんだ漱石と、明治中期に育ち、新しいものを抵抗なく受け止める白樺同人の間には、世代の違いもあります。

こうした違いを持ちつつも、本質的なところで白樺同人を理解し評価した漱石と、先輩として尊敬しつつ文学者としては対等に立とうとした白樺同人の交流を、評論や回想などの作品と、書簡や証言などの記録からさぐることを試みます。

### ◎展示解説

解説：伊藤陽子(当館主任学芸員)  
日時：5月9日(日)  
午後1時30分～2時30分

会場：実篤記念館展示室

参加費：入館料のみ

申込み：不要

### 〈関連行事〉

#### ◎読書講座「ある青年の夢」を読む」

講師：瀧田浩氏(二松学舎大学准教授)  
日時：9月5日(日)  
午後1時30分～3時30分

会場：東部公民館・講座室(予定)

定員：30名

参加費：525円

申込み：8月22日(日)必着\*別記方法で

## 「これからの催し」

### ◎文学コンサートin実篤記念館

実篤公園の春の花々と音楽を楽しみませんか?  
解説：関田英二氏  
(桐朋学園大学音楽学部教授)

演奏：桐朋学園大学音楽学部学生

日時：4月10日(土)  
午後1時～2時

会場：実篤記念館

参加費：入場料のみ

申込み：不要。当日、直接会場へ

◎初夏の自然観察会

講師：富田広氏(自然観察指導者)

日時：5月8日(土)※小雨決行  
午前10時～午後3時

コース：実篤公園と周辺緑地

定員：20名

参加費：525円(資料代、保険料他)

申込み：4月24日(土)必着\*別記方法で

◎読書講座

「原田宗典、武者小路実篤を朗読する」

会話が得意だった実篤の戯曲を皆で朗読しましょう。声に出してみると、今まで気付かなかった魅力が見えてきます。

講師：原田宗典氏(作家)

日時：5月15・22・29日(土)

午後1時30分～3時

会場：東部公民館・和室ほか

定員：30名

参加費：2100円

申込み：5月1日(土)必着\*別記方法で

### ◎「作ってみよう！梅ジャム」

記念館中庭の梅の木は、新しき村から贈られ毎年たくさんの実を付けます。梅の実の収穫とジャム作りを体験します。

講師：伊藤陽子(当事業団主任学芸員)

日時：6月12日(土)・13日(日)

午後1時～4時

\*同内容で2回

会場：記念館と東部公民館

定員：各回15名

参加費：1人735円(材料費他)

申込み：5月29日(土)必着\*別記方法で

◎つつじヶ丘歴史散歩(秋)

実篤が住み、愛した武蔵野の歴史と地域の特色を歩いて学びます。

講師：山岡博氏(調布史談会会員)

日時：9月11日(土)午前10～12時

コース：つつじヶ丘駅周辺

定員：15名(小学校中学年以上)

参加費：2100円(資料代他)

申込み：8月28日(土)必着\*別記方法で

◎展示解説

展示会会期中に各1回開催します。展示の見どころ、作品、資料や実篤にまつわるエピソードなどを解説します。

講師：展示会担当学芸員または専門員

日時：日程は、記念館HP、調布市報でご確認ください。

午後1時30分～2時30分

参加費：入館料のみ

申込み：事前には必要なし。

当日、直接展示室へ



# 夏休み企画

## ◆「もっと知りたい!夏休みサポート」

次のようなサポートを予定しています  
 ①ワークシートを利用した記念館、公園の探索 ②実篤公園の植物を使った工作 ③実篤公園周辺の動植物、昆虫、実篤や白樺派についての調べ方や参考図書のアドバイスなど。また、閲覧室には自由研究に役立つ図書類も開架しますので、あわせてご利用ください。  
 日 時…夏休み期間中の木曜日  
 7月22・29日  
 8月5・12・19・26日(木)  
 午前10時～午後4時

会場…実篤記念館

参加費…入場料のみ  
 申込み…不要。当日、直接会場へ。

※シユロの葉バツタの工作は、7/22、8/5、12、19のみ、先着10組まで。

## ◆「作ってみよう!私だけの本」

(3回連続)

文と絵を自分で制作し、ハードカバーの本に仕立て、世界にたった一つだけの本を作ります。

講師…田尾明敏氏

(NPO美術研究センター理事)

岡野暢夫氏(製本工房リール)

日 時…7月24日(土)・7月25日(日)

午後1時30分～3時30分  
 8月6日(金)午後2時～4時  
 \*3回出席が原則です。

会場…実篤記念館・東部公民館  
 定員…15名(対象…小・中学生)

参加費…1575円(材料費他)

申込み…7月10日(土)必着\*別記方法で

## ◆「実篤に挑戦!墨と筆で絵をかこう」

筆と墨を使い実篤がよく描いた野菜などを描き、実篤の描き方を体感する恒例の催しです。画材等は用意してありますので、お気軽にご参加ください。  
 日 時…8月13日(金)・14日(土)  
 午前10時～午後4時

会場…実篤記念館  
 参加費…入場料のみ  
 申込み…不要。当日、直接会場へ。

(随時実施)

## ◆「特別編」実篤に挑戦!

「うちわに筆と墨で絵を描こう」

実篤と同じように筆と墨でうちわに描き、簡単な落款も作って捺します。

講師…菱沼陽土女氏(絵画講師)  
 日 時…8月15日(日)  
 午前10時～12時、  
 午後1時30分～3時30分

\*同内容で2回

会場…実篤記念館

定員…午前、午後各15名

参加費…1050円(材料費他)

申込み…8月1日(日)必着\*別記方法で

## ◆ボランティアガイドツアー

実篤の生涯と、旧実篤邸での暮らし、実篤公園の季節、記念館の見どころを約1時間で解説案内します。(荒天中止)  
 ガイド…記念館協力ボランティア

日 時…4月18日、5月16日、6月20日、  
 7月18日、9月19日(日)

午後2時～3時

参加費…無料  
 申込み…不要

当日、午後1時55分に実篤公園(仙川駅口)に集合。



ガイドツアーの様子

## 協力ボランティア募集!

### ◆第5回協力ボランティア養成講座 (6回連続)

実篤記念館の講座の運営や実篤公園の草花の手入れ、ガイドツアーなど当館の事業をサポートする協力ボランティアの第5期生を募集します。

今回は、3年ぶりの養成講座で、協力ボランティアの活動に参加いただくためには、本講座を受講していただく必要があります。

武者小路実篤の人と業績、実篤記念館の役割などを学びながらボランティア活動を体験し、講座終了後、登録していただいで本格的な活動を始めます。

日時…5月27日(木)、6月24日(木)、  
 7月29日(木)、8月26日(木)、  
 9月25日(土)、11月25日(木)  
 午後1時30分～3時

(ただし、7月29日は新しき村見学会のため1日の活動)

会場…実篤記念館内ほか

定員…20名(6回受講出来る方)

対象…高校生以上

参加費…無料

申込み…5月13日(木)必着\*別記方法で

### ■申込方法

往復ハガキで、ご希望の事業名、郵便番号、住所、氏名、年齢または学年、電話番号を明記の上、武者小路実篤記念館へ。1枚で2名まで応募可。但し参加者全員の氏名を記入のこと。

# レポート

## 「生きること」

秋の特別展  
 高田博厚と実篤  
 会期：平成21年10月24日(土)～  
 11月29日(日)



欧米旅行中の実篤は約1ヶ月パリに滞在し、高田の案内で美術館を巡り、ピカソ、ルオー、マチスらのアトリエを訪ね、

彫刻家・高田博厚は「白樺」で西洋美術に目覚め、昭和2年、彫刻家として初出品したのが、実篤が主宰した「大調和展」でした。また、実篤が提唱した「新しき村」の活動が高まりを見せる時期、高田も生産事業をして生活の糧を得る共同生活を試みます。そして、昭和6年、高田が渡仏する時には、実篤が保証人のひとりとなるなど、初期の活動の大きな節目に実篤の存在があります。11年に実篤が欧米各国を旅行するまで、数回しか会っていない二人ですが、お互いその存在には関心を寄せていた事が判り、二人の接点を資料により丹念に紹介しました。

充実した日々は二人の交友を深めました。実篤が送付を手伝ったという、高田がパリで発行していた「日佛通信」を展示することができ、当時の様子を伝える貴重な資料として関心を集めました。

本展では鎌倉市所蔵の高田作品を中心に、高田の初期の作品、内面世界にまで迫る多くの肖像彫刻や、普遍の美を求めた豊かな女性像やトルソなど彫刻14点、デッサン2点のほか、高田が愛蔵していたロダン作品3点、高田旧蔵の実篤作品やゆかりの資料を展示。二人の交流とともに、晩年、共通して年齢を重ねても旺盛な創作意欲を持ち続け、創作の仕事をすることが、生きる証とした日々注目をしました。

### \*移動展「人と筆跡」

武者小路実篤記念館収蔵品より

会期：9月19日(土)～10月25日(日)

会場：「たづくり」1階展示室

主催：調布市文化・コミュニティ振興財団

調布市武者小路実篤記念館

〈企画協力〉調布市武者小路実篤記念館連

### 営事業団

当館で収蔵している実篤愛蔵品から、良寛や一休宗純など多くの墨蹟、鄭道昭「雲峰山磨崖刻碑」拓本など14点をはじめ、文人・画人の筆跡として、志賀直哉、夏目漱石、有島武郎、岸田劉生、高村光太郎、林武ら交流のあった人々の書19点、実篤の書16点、そのほか資料や写真、愛用の硯や筆などを展示。

筆跡を通して、作家の心や作品に対する実篤の思い、作家と実篤との多彩な交流をあわせてご紹介しました。

### 〈関連事業〉

#### ◆朗読会「実篤を聴く 書を語る」

書にちなみ、実篤の書についての随筆をはじめ、作品が展示されている一休、良寛、夏目漱石について書いた作品、「一休和尚について」、小説「良寛」、「夏目漱石の思い出」などを取り上げました。

出演：川和孝氏(演出家)

出演：河崎早春・根岸光太郎・松尾智昭・宮崎敦吉

日時：10月10日(土)

第一回/午後1時、第二回/午後3時

(同内容で二回開催)

会場：「たづくり」8階映像シアター

#### ◆記念講演会

「孫からみた 武者小路実篤」

講師：武者小路信和氏

(大東文化大学文学部准教授)

日時：10月17日(土)午前10時～11時30分

会場：「たづくり」8階 映像シアター

牟礼の家で小さい頃には実篤と一緒に生活し、仙川の家に移った後も、子供のころによく訪れていた信和氏から見た、武者小路実篤を語っていただきました。

実篤は「おじいさんは元、お相撲取りで、横綱だった。」という、すぐそばで感じてしまうような事を孫に話し、喜んでいたりというエピソードでは、孫をからかう、面白いおじいさんとして、孫たちがなついていた様子や、ユーモアのある実篤の手柄が伝わってきました。また、仙川の家では庭を案内して鯉や鳥に餌をやったり、プールを作ってくれたお話を、孫と接する素顔の実篤を知る機会となりました。

### 「催しものから」

#### ◎読書講座「真理先生」を読む

講師：瀧田浩氏(二松学舎大学准教授)

開催日：9月12日(土)

文庫本と講師作成のテキストを用い、執筆当時の時代背景と、実篤が置かれていた現実を丹念に検証し、作品に込められた思想を読み解きました。そして、登場人物達が、どんな場合にも真理を信じて生きぬく姿を描く本作が、様々な読者に希望を与えられる、現代でも読み継がれるべき作品であることを学びました。

#### ◎親子工作講座

講師：渡邊由美子氏

(ねこじやらし代表)

開催日：10月31日(土)

平成18年7月に強風で倒れた実篤公園の朴の木を利用して、ウッドプレートを作りました。木の幹を輪切りにしたものの表面に木の実を飾り付け、ひもをかけてプレートに仕上げます。大きなマツボックリをつけたり、ドンダリを飾ったり、個性あふれる作品ができました。

#### ◎秋の自然観察会

講師：富田広氏(自然観察指導者)

開催日：11月7日(土)

春の観察会に続き、食べられる秋の野草を中心に解説を行いました。胃腸の調子を整える効用の或るクマザサとドクダミを煎ってお茶を作り試飲しました。思ったよりさっぱりしている、飲みやすいなどの声が多く好評でした。



◎美術講座「白樺派の愛した美術」

講師…榎山昌夫氏

(神奈川近代美術館主任学芸員)

日時…11月11日(水)、17日(火)

1回目は、雑誌「白樺」が誕生100年を迎えるにあたり、当時の同人たちの活躍と時代に残したものを改めて考えました。雑誌に掲載された絵画や主催展覧会の写真から同定した展示作品の解説から、「白樺」の西洋美術紹介がその後の日本人の美術観に与えた影響の大きさを実感しました。2回目は展覧会が開催されている神奈川近代美術館葉山館に行き、講義で学んだ絵画や資料を見学しました。

◎製本講座(中級編)

「ハガキ製本と綴じ製本」

講師…岡野暢夫氏(製本工房リール)

日時…2月2日・16日(火)

昨年行った製本講座初級編に続く中級編です。ハガキ製本では、外国の絵はがきや年賀状等を綴じて製本し、20枚のハガキに1センチ幅の和紙を継ぎ足し、ハードカバーの本にまとめました。和綴製本は、表紙の色と綴じ糸の色が華やかな1冊が出来上がりました。

ポランティアの活動から

◎ポランティアステップアップ講座

(第6回)「来館者対応研修」

講師…今井かおり氏

(話し方教育センター)

日時…1月28日(木)

会場…実篤記念館

実篤記念館には、子どもから年配まで

幅広い年代の方が来館されます。そのため、当館協力ポランティアもガイドツアー等の活動に於いて、大勢の来館者と接する機会が多いことから、今回はスムーズなコミュニケーションの取り方を学びました。参加者は、「恐れ入りますが」「申し訳ありませんが」といった柔らかい言葉の効果的な使い方等も学び、臨機応変に適切な対応が可能となるように、自分達に出来ることから実践していききたいとの前向きな声が聞かれました。

◎閲覧室「実篤に挑戦」作品の掲示

来館者の多くは、休憩コーナーでお茶を召し上がったたり、DVDを鑑賞したりゆっくりと過ごされます。窓際に設置した「実篤に挑戦」コーナーでは、モチーフを自由に選び、色鉛筆で絵を描くことができ、その作品の一部は、毎月始めに協力ポランティアが掲示します。虎の置物や貝殻、中庭の木々などの写生や、好きな言葉を書き添えた絵など、個性豊かな作品は、来館者の方々に楽しんでご覧いただいています。

◎閲覧室開架図書整理

閲覧室には約1000冊の図書が用意され、どなたでも手に取って読むことが出来ます。実篤や志賀直哉の著作、「白樺」の復刻版、新しき村関係の本などさまざまです。多くの本を気持ち良く利用できるよう、ポランティアは2ヶ月に1回、図書の整理と清掃を行っています。埃をはらい、全集は番号順に並べます。記念館の財産である図書をいつまでも大事に保存していきたいと思えます。

泉

昭和三十年代の仙川

新井七吾

(調布市武者小路実篤記念館 運営事業団監事)

実篤先生が緑と水を求めて移り住んだ昭和三十年代の仙川を、思いつくままにお話いたします。

私はずっと実篤邸のすぐ近くに住んでいます。昭和三十年頃には、小学六年生か中学一年生で、先生が旧入間町に住んでいることを知りませんでした。又、作品の『友情』も、友達や異性を意識するようになった高校生の頃に読んだのでした。当時は、戦後の復興が急ピッチで進み始める頃で、仙川駅周辺のまばらだった商店が徐々に増えてきた時期でした。先生の「仙川の家」は、国分寺崖線の中にありますが、この辺りでは、崖線を「羽毛(ハケ)」と呼び、「ハケ下」「ハケ上」といった屋号が今でもあります。当時、「ハケ下」には農家が並び、どの家にも湧水池があり、洗い物に利用していました。湧水は、夏は冷たく、冬は温かく、農家にとっては大変ありがたい恵みでした。「ハケ」は子ども達にとっても良い遊び場でした。沢蟹採りや蛭狩り、冬にはソリ遊びをしたのです。

さて、仙川の近くを入間川が流れていますが、当時は、浅瀬にはしじみ、深い所には魚やうなぎもいて、大人も子どもも、川を利用したり、遊んだりしているような自然豊かな場所でした。そんな様子ですから、実篤先生は、御自宅の周辺を散歩され、自然に触れ、野草や土器を探された

のではないかと思います。実篤邸には、上の池と下の池があり、私が小学生の頃、下の池の周りには垣根も無く、夏は子どもたちの遊び場になっていました。実篤邸の上の池は湧水池でしたが、下の池で魚を追い、ザリ蟹を探したものです。田の作業が始まる六月頃になると、入間川には幾つもの堰が出来ました。私は、自然のプールの様になったその堰の一つで、泳ぎを覚えました。当時は、小学生から中学生まで一緒に遊んでいたのも、上級生が泳ぎを教えてくれたのです。

さて、この実篤邸の周辺は、遺跡の多い場所でもありません。特に「ハケ」の上や台地は、埋蔵文化財包蔵地になっており、普段でも少し掘ると土器が出てきます。私の自宅の周りからも、石器や土器が出土します。実篤先生は、土器の拾える所を好んでいたとも聞いています。散策の途中、縄文時代の土器の一部を見つけて、遠い昔に思いを馳せていたのではないのでしょうか。

やがて、昭和三十五年頃になると、宅地造成が進み、団地が出来、戸建ての家も増えてきました。人口も増え、昭和三十八年には、小学校が新設され、子どもの声も大きく聞こえるようになりました。このように、仙川は実篤先生の住んでいる間に、現代の姿へと移り変わってきたのでした。





戯曲  
「ある青年の夢」

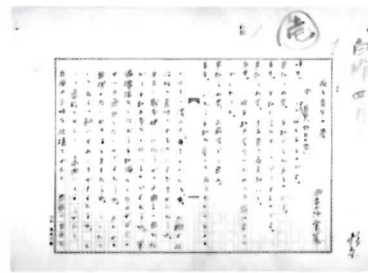
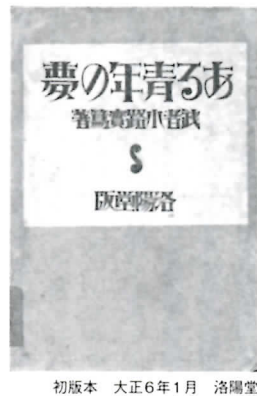
第一次世界大戦時の反戦作品

「ある青年の夢」は、第一次世界大戦の渦中である、一九一六(大正五)年三月から一月まで『白樺』に連載された、反戦をテーマとした全四幕の長編戯曲です。主戦場となったヨーロッパと異なり、対岸の火事であったこの戦争は、日本がアジアの利権と中国支配を強化するための大きな第一歩となりました。このような状況と、戦争の悲惨さに直面したヨーロッパでさえ反戦の思想が力を持ちえなかつた状況とを考えあわせれば、当時の日本でこの反戦作品のメッセージが受けとめられなかつたことは不思議ではありません。当時の「ある青年の夢」にたいする批評を見ても、反戦のメッセージに反応するものではなく、「戦争」ということばさえほとんど出てこないことに驚きます(ただし、中国では魯迅や魯迅の弟の周作人から高い評価を受けたことをきっかけに、この作品の平和のメッセージは、広く受容されます)。

反戦文学の中味

「ある青年の夢」を反戦作品と呼ぶこ

とは間違っています。プロレタリア文学者の黒島伝治の評論「反戦文学論」でも、日本における数少ない反戦文学の系譜の中で「人道主義の戦争反対」として位置づけられています。しかし、作品をよく読んでみると、「反戦」の中味は単純なものではないことがわかります。



主人公のある青年は、見知らぬ者に強制的に連れ出され、さまざまな場所での戦争について考えることを強いられます。第一幕は第一次世界大戦で死んだ亡霊たちによる平和大会、第二幕は飢えた青年が出会う無政府主義的な考えを持つ乞食と彼を信奉する若い男女たちのいる場所、第三幕第一場は息子を戦争で亡くした画家が絵を描く岡の上、第二場はいくさの愚かさを演じる狂言がおこなわれる村祭、第三場では少年時代に戻った青年が下級生とのいさかいの中で、ピストル

で下級生を殺し、斬り倒される夢、第四幕は「独太郎」「英太郎」「日太郎」などと擬人化された第一次世界大戦の戦争当事国たちが、侵略されることに対する疑心暗鬼と悪魔の策謀によって戦争に突入、悪化するまでを、第二幕に登場した若い男女たちが演じる芝居小屋です。

戦争反対に立ち上がらないままの青年

幕と幕の間に直接のつながりがないこの戯曲において全体を貫いているのは、反戦のメッセージというより、反戦のための積極的な行動に踏み切れない青年の優柔不断さです。見知らぬ者や青年が出会う人たちは、戦争の悲惨さと無意味さを青年に伝え、戦争反対者として立ち上がらせるべく働きかけます。しかし、青年の態度は煮え切らないままです。序には見知らぬ者にたいする「俺にはまだお前に逢ふ力はない」という青年の言葉があるし、第三幕第三場で青年が下級生を殺してしまつたあとには「お前はそれでも平和を愛するものか。非戦論者か」という見知らぬ者の落胆の言葉があります。戯曲の最後は次のとおりです。

見知らぬ者。今度は之でお前を地上に帰してやらう。あとは皆で考へろ！

(見知らぬ者、青年をつかまへて窓からほり出す)

青年は戦争反対をになう人物へと変貌をとげないまま、戯曲は終結してしまふのです。青年は、物語が終わつたあととも戦争にたいする自分の行動についてずっと考えることになるのです。

戦争について考えさせるために

「ある青年の夢」には数多くの劇中劇があります。第一幕では、お互いに殺されることを恐ろしいためばかりに相打ちで死ぬ武士についての「狂言」、第二幕では、愛する男の死によって愛することができなくなった女についての「素人芝居」、第三幕第二場では、陰陽師と神によっていくさが回避されることになつたという「狂言」。同第三場では、青年が切り倒されることになつた下級生との争い自体が夢であり、第三場全部が一種の劇中劇と呼べそうです。そして第四場は、すべてが若い男女による「田舎芝居」という劇中劇です。

劇中劇は青年に戦争にたいする思考をうながすためにおこなわれます。しかし、ここで読者の読み方を考えてみると、劇中劇というしくみは青年と読者と同じ場に置けばたらしきをすることがわかります。戦争の傍観者でいつづける青年への働きかけは、同時に読者に戦争にたいする再考をうながします。「ある青年の夢」は反戦のメッセージの効果を観的に信じる作品ではありません。むしろ、戦争の無意味を知りながらも、戦争に反対することに向かわない人々に向けられた作品です。第四幕で再登場する乞食の「根です、根です、民衆です。もう少し人間が進歩すればいい、のです」という台詞は、裕福な知識人層を中心とした読者たちに鋭く突きつけようとするものであつたと考えられます。



# 実篤関連情報

\*「龍となれ雲自ずと来る」

武者小路実篤の画譜に学ぶ

監修…小池邦夫 発行…清流出版

平成二十二年三月

絵手紙作家・書家として活躍する小池邦夫氏は、常日頃、実篤を一番影響を受けた作家であると述べています。その小池氏が、実篤の画譜を「野菜、果物、植物、人間、大自然をも含んだ生きとし生けるものすべての命の輝き」に、温かな視線がそそがれ、そこからこぼれ落ちた言葉だから温かい」とし、「読んで噛み締めてみると勇気がわいてくる言葉ばかりである」と述べ、実篤の書画を紹介する本書の「背骨」として編集しています。

当館は、資料提供と編集協力をいたしました。



【大原美術館紀要(第3号)】

白樺に関連する論文として「日本民藝運動の主導者たちと倉敷」(柳沢秀行・財団法人大原美術館学芸課長)と「大原美術館における白樺美術館所蔵品について」(鈴木禎宏・お茶の水女子大学大学院准教授)の2点が収録されています。

鈴木氏の論文では、現在、大原美術館に収蔵されている「白樺美術館所蔵品」の収蔵経緯について書かれています。その中でも特に、ロダン作の3点の彫刻、セザンヌ作「風景」が、大原美術館に「白樺美術館より永久寄託」となった経緯を、丹念に資料を追うことで整理された論考が注目されます。

この中でポイントになった資料が、当館所蔵の新しい村会員の故・上田慶之助の資料でした。実篤や実篤周辺の白樺美術館への思いも垣間見ることが出来るもので、「白樺」創刊100年の年に意義深い出版となりました。

## 資料受贈報告

平成21年度下半期(2月28日現在)の寄贈図書・雑誌は70点。購入図書・雑誌は49点ありました。

## 人事異動

〈調布市〉

平成21年10月1日付で主査・砂川達夫が異動し、主査・高木政明が着任しました。

〈調布市武者小路実篤記念館運営事業団〉

平成21年10月1日付で、監事・新井七吾が就任しました。

## 事業報告

■實篤公園内あずまの屋根改修工事実施(平成21年度から22年度)  
公園を安全に快適に利用していただく

ため、あづまの屋根を改修します。

## ■記念館閲覧室の開室日拡大

これまで閲覧室は、毎週木曜日と最終週水曜日を休室していましたが、利用者のご要望にお応えして、平成22年4月より展示替期間中には、開室いたします。

## ミュージウム★グッズから

「実篤チョコ」は普段から定番の人気商品ですが、毎年、バレンタインチョコとしてご好評をいただいております。今年も限定チョコを販売しました。

限定版は函に実篤の南瓜や張子虎の絵と、「美愛眞」の書をあしらひ、ミルクチョコとカボチャ風味のホワイトチョコを詰め3000個を制作しました。

また、3月にはホワイトデーを機会に新しいグッズとして、和のスィーツ「実篤かぼちゃ落雁」を新たに制作しました。

これは、実篤が好んで描いた南瓜にちなんで、南瓜の粉を加えた落雁を、実篤の絵をもとに制作した型で作ったオリジナルの商品です。台紙は実篤のバラの絵をちりばめ、裏側には型のものになった南瓜の絵と「心より」の文字をあしらひ、しおりとしてもお使いいただけます。

1個550円(税込)で、こちらは定番商品として、シヨップで販売しております。



## 友の会

友の会交流会「観梅のつどい」

七回目となった恒例の交流会を、2月21日に開催しました。

第一部「観梅のしらべ」では、地元・仙川の桐朋学園大学音楽学部と市内の邦楽サークルによる、ジョイントコンサートを記念館内で開催しました。洋楽、邦楽それぞれの演奏に加え、合奏もあり、あまり聴く機会のない演奏に、100人を超す方が参加されました。窓外の中庭にある新しき村から贈られた梅も、今年はこちらでど見ごろとなりました。



第二部交流会では、本号一面で取り上げた「愛と死」解説ビデオを上映し、学芸員が「愛と死」原稿にまつわる逸話を紹介しました。また、友の会幹事で学校司書の横山寿美代氏より、「ほくもきみもかぼちゃも大切、みんな美しい」小学校図書時間の実篤を紹介」と題してお話しいただきました。小学生に興味を持ってもらう工夫や、子供たちの反応など、参加者は興味深く聞き入っていました。



『白樺』の美術活動を語る資料

\*ハンス・トーマ  
 「ハルビエー(Harvey)」(複製版画)  
 (リトグラフ) 38.0×35.0cm  
 \*岸田劉生  
 「岸田劉生作品個人展覧会ポスター」  
 (木版画) 67.0×24.0cm

今年には武者小路実篤らが雑誌『白樺』を、明治43(1910)年に創刊してから100年を迎える。文学、美術に新しい流れを生み出した彼らの活動の中でも、白樺主催の美術展覧会や白樺美術館設立運動は重要なものにあげられ、当館にはゆかりの資料が収蔵されている。



ひとつは、「泰西版画展覧会」に出品された、志賀直哉旧蔵のハンス・トーマ「ハルビエー」である。

「泰西版画展覧会」は明治44年10月11日〜20日、赤坂・三公会にて開催さ

れ、オリジナル作品138点、複製または写真51点の計189点が出品された。白樺同人たちが当時、興味を持っていた作

品を盛り込んだ内容で、フォーゲラー、ヴァロットン、ピアズレー、ムンク、クリンガーなど西洋美術を紹介し、多くの若者たちに影響を与えた展覧会としても知られている。

ハンス・トーマはドイツの画家で、この作品は農家の庭先を描いた穏やかな風景画で、展覧会では彼の作品は他に3点が展示されている。志賀家では、題材もあって子供部屋に掛けられていたという。

この資料は版画(リトグラフ)による複製で、当時の目録を見ると、目録番号153、「額縁共五圓にて御譲り可致候」と書かれている。当時、平均的な大工の日当が1円という時代であったことから、かなり高額の価格である。現在も、古いがしっかりとした木製の額に入られていると、目録にある当時の額縁と考えられている。

このほかにも、大正7年の第八回白樺美術展に出品された写真版複製のうちギリシャ彫刻「ソホクレス」(目録一〇)、ティントレット「若き男の肖像」(目録一二六)など9点が、実篤が旧蔵、あるいは実篤から日向新し



き村に渡り、創立期の村内会員・松本広吉が保存していた複製資料の束から見つかった。

これらの複製画の裏面には、所蔵者名と、目録番号が記載されている。実篤ばかりでなく、志賀や小泉鐵が所蔵していた複製画にも同様の記載があり、これらから、白樺主催の展覧会は、同人たちの所蔵していた複製画や写真版などを持ち寄って開催していたことが確認できた。

白樺主催美術展覧会では、西洋美術の紹介以外に、若手画家たちの展覧会も開催しており、当館では、創刊10周年を記念して、大正8年4月に開催された「岸田劉生作品個人展覧会」のポスターを所蔵している。

これは東京展のものだが、同図案で中の文字を変えた京都展のポスターが、東京国立近代美術館に収蔵されている。

このポスターは木版多色刷りで、図案は岸田、木版制作は「劉生図案画集」制作でも活躍している伊上凡骨と考えられる。「白樺」の美術活動を伝える作品であるとともに、岸田の装飾性豊かな作品としても貴重なものである。

(当事業団首席学芸員 福島さとみ)

利用案内

開館時間 / 午前9時〜午後5時  
 (閲覧室は午前10時〜午後4時)  
 入場料 / 大人……………200円  
 小・中学生……………100円  
 休館日 / 月曜日(祝日の時はその翌日)  
 年末年始(12月29日〜1月3日)  
 \*その他、展示室、閲覧室の休業日があります。  
 交 通 / 京王線つじヶ丘駅または仙川駅下車徒歩10分  
 小田急線成城学園前駅より「調布駅」または「神代団地」行きバス稲荷前下車徒歩5分



〈ホームページ〉  
<http://www.mushakoji.org>

登録番号  
 (刊行物番号)  
 2009-226

「美 愛 眞」

調布市武者小路実篤記念館 館報 第18号  
 発行日…2010年(平成22年)3月31日  
 発行行…調布市武者小路実篤記念館  
 〒182-0003  
 東京都調布市若葉町1-8-30  
 ☎03-3326-0648  
 編集…調布市武者小路実篤記念館 運営事業団  
 レイアウト…デザイン室 あとりえ